

關門國道隧道の貫通成る

和泉生

夢物語と嗤つた關門國道の直通連結が、話題となつて登場したのは、恐らく十數年前であつたらう。爾來内務省に於ては、鋭意之が調査を進め、架橋案から隧道案へと推移した。即ち昭和十二、十三兩年度に亘り、總額五拾萬圓を以て、地質調査其の他の工事を完了し、懸々實施計畫を樹立するの運びとなつた。然し乍ら本工事は、我が國最初のものであり、世界無比なる見地から、設計工法等に關し尙充分検討の必要を認め、斯界の權威者を網羅して關門隧道專門協議會が設立され、昭和十三年七月四日、内務大臣官邸に於ける第一回協議會の開催を契機とし、茲に世紀的巨歩の光輝あるスタートを切つた。

世界の眼は此の海峡へ一齊に集中された。總工事費壹千七百萬圓、工事は、昭和十四年度より同二十三年度に至る十箇年繼續である。

加藤關門國道建設事務所長以下の意氣込は形容の言葉がない。

血の滲み出る様な勞苦と、不眠不休の精劔は火の彈丸と化し、抜けよ、貫けよと突進した。貫通は一日を急ぐ。技術日本の金字塔確立の爲に、彼等は身を賭して闘つた。

血みどろの三星霜は流れた。遂に来るべき時が來たのだ。

昭和十七年五月三十一日。

此の歴史的貫通式は、世界隧道史上類を見ざる、〇〇米の海底隧道内に於て舉行された。式場は煌々たる電光に映出され、恰も神祕の殿堂そのものである。參列の湯澤内相、新井國土局長、岩澤道路課長等の内務省關係官を初め、石井下關要塞司令官、副島海軍水陸部長、山口福岡兩縣知事等の嚴肅な顔が綺羅星の如く輝き、此の大盛典に相應しい情景である。

午前九時五十五分、國民儀禮終るや、係員が「只今より貫通爆破に移ります」と宣すれば、式場を埋める七百の參列者はぐつと緊張し、場内は瞬間静寂に沈む。やがて、鐵兜、雨合羽、長靴姿

も颶來たる加藤建設所長が、湯澤内相を式場の前面中央に當る爆破装置の電鍵臺へ導けば、今迄爐々と場内を照してゐる電光は忽ち消え、カソテラの青白い薄光に内相の勇姿が嚴然と浮び上る。

加藤建設所長の手が、電鍵臺の専用電話に觸れた。爆破地點の第四連絡坑へ、爆破準備の命令である。間もなく準備完了のベルが、

暗黒の空氣を震はして響き、加藤建設所長より其の旨内相に報告すれば、時を移さず、内相の一指が無限の感激を込めて電鍵を押す。

臺上の赤色電燈が青色に變つて數秒、百雷の落下にも似た爆音が、ドドンと轟然三回、固唾をのむ式場を搖がせば、硝煙の匂ひが、ぶーんと鼻孔を衝く。

嗚呼、世界に誇る一世の大工事

關門國道海底隧道の感激の扉が見事開かれたのだ。何たる偉觀、何たる歡喜であらう。矢庭に内相の双手が、海面にも抜け出よとばかり高く揚り、場内も碎けんば

かりの萬歳を絶叫すれば、參列者一同はこれに和し、萬歳々々の炸裂に式場はその最高潮に達した。

貫通の興奮消えやらぬ式場に於て、引

續き修祓式が嚴かに行はれ、神事の後、

祭主松尾下關土木出張所長、湯澤内相等の玉串奉典あつて閉式となつたが、

十一時三十分頃、内相以下軍官民の來賓及工事關係者の一團は、鐵兜、ゴム合羽、長靴姿も物々しく、先刻開いた

ばかりの坑道を、門司側より下關側へ通じて通初めをする。

貫通　トンネル戰士三箇年の苦闘を物語る

的　坑内は、間斷なく降りしづく湧水と硝煙で、霧の山路と疑ふうちに貫通點に歴

達する。加藤建設所長の心中や如何ばかりであつたらう。熱い涙が銀線となつて双頬を縋ひ、内相に對する説明も、涙に墨つて嗄れてゐる。無理もなから

う。人目がなければ、男らしく思ひきり泣き崩れたいことであつたらう。然し内相は當時の難工事の状況と、加藤建設所長の心情を香み込む如く、うんぐと頷く思



りには、言ひ知れぬ温いものを感ぜざるを得なかつた。

祝賀式は、豫定より一時間遅れ、午後二時となつた。關門國道建設事務所脇の廣場には、紅白の幕が張りめぐらされ、古式床しい大太が開式の合図を告げる。

松尾下關土木出張所

長の式辭に次で内相の

告辭、加藤建設所長の

工事經過報告、續いて

前田西部司令官代理、

本間福岡、佐々木山口

兩縣知事、道路改良會

々長代理の感謝と激励

溢るゝ祝辭の朗讀を終

つて祝宴に移る。

一同の顔は晴れやか

に微笑を湛へ、次から

次へ、と繰り展げらる

ゝ餘興のプログラムに視線が注がれる。餘興は何れも、トンネル

戦士の十八番物だけに、素人と思へぬ佳さと熱があつた。殊に、

トンネル戦士の偉業を讃へた「男の凱歌」は、十數名の戦士がト

ンネル工事の裝束で舞臺を壓し、銅鑼聲を張り上げての一幕は、



拍手喝采にしばしは鳴りを知らざる人氣を呼んだ。

空は澄んで初夏の潮風も軟い。列席者の眼元や頬に、祝酒のきぬが仄り漂ふ。時はよしと、前田陸軍中將の發聲で聖壽の萬歳を三唱すれば、今日の盛儀を慶祝するかの如く、音波は海を越

え、山を傳ひ、街を縋つて流れ行つた。

大東亜戰爭の勃發に依り、本隧道は國防產業上押しも押されぬ絶體的の存在となつた。従つてこれが完成は、寸秒も等閑に附し得ない國策的事業の實祿を具備したことになる。從業員の格段の勉勵努力と、軍官民の積極的支援が麗しく實を結び、一日も早く此の暫期的大事業の完成することを、神かけて祈るものである。

内務大臣告辭

二號國道關門隧道茲ニ貫通ヲ見ル寔ニ欣快トスル所ナリ。

抑關門海峡ハ本州ト九州トヲ繋ク要衝ニシテ、戰時下之カ直接聯絡ノ緊要ナルハ敢テ贅言ヲ要セサル所ナリ、仍テ政府ハ曩ニ慎重調査ノ結果内務省直轄工事トシテ早朝瀬戸附近ニ海底隧道

ヲ掘鑿スルコトニ決定シ、昭和十四年ニ着工シ時局下幾多ノ

困難ニ逢着シタルモ關係軍官民ノ熱誠ナル協力ヲ得、從務員又

日夜ノ別無ク克ク其ノ責務ヲ完フシ遂ニ其ノ貫通ヲ見ルニ至レ

昭和十七年五月三十一日

内務大臣 湯澤三千男

祝辭

惟フニ本工事ノ貫

通ハ我國ニ於ケル土

木技術ノ誇トシテ意

義寔ニ大ナルモノア

リ、之カ完成ノ曉ニ

ハ國防ノ強化、產業

ノ發展ニ重大ナル結

果ヲ及ホスモノアル

ヘシ、邦家ノ爲衷心

ヨリ慶賀ニ堪ヘサル

所ナリ。

茲ニ本隧道貫通ノ

式典ニ當リ關係軍官

民各々ノ絶大ナル援助ト從務員諸氏ノ不斷ノ努力トニ對シ深厚

ナル敬意ヲ表スルト共ニ、更ニ一段ノ協力ト奮闘トニ依リ速ニ

今後ノ工程ヲ進メ以テ所期ノ目的ヲ完成シ、國運ノ隆昌ニ寄與

スル所アランコトヲ一言述ヘテ告辭トス。

本日茲ニ國道關門隧道貫通祝賀ノ式ヲ舉行セラル洵ニ欣幸ノ至

所ナリ。

茲ニ本隧道貫通ノ

式典ニ當リ關係軍官

抑本州ト九州トヲ直接連絡スル爲
メニ或ハ架橋ニ依ルヘシトナシ或ハ
隧道ニ依ラサルヘカラストノ議アリ
シモ慎重調査ノ結果軍事上産業上交
通上隧道ニ依ルヲ適當ナリト認メ且
其ノ位置ヲ早懸戸ニ選定セラレ茲
ニ該工事ノ貫通ヲ見ルニ至レリ本工
事ハ實ニ昭和十四年度内務省直轄工
事トシテ着工シタリシカ或ハ湧水ニ
或ハ落盤ニ幾多ノ難工事ニ逢着シタ
ルモ克ク之ヲ克服シ加フルニ資材亦
不足ヲ告クルモ能ク之ニ耐ヘ惡戰苦

圖茲ニ三年工事擔當諸氏ノ勞苦禁スルニ餘リアリ惟フニ本工事上
ニ見ルニ我邦土木技術ノ進歩ハ實ニ驚嘆ニ值スルモノアリ而カモ
從事員諸氏ノ日夜不斷ノ辛勞ハ亦實ニ感謝ニ堪エサル所ナリ
庶幾クハ尙一層憚屬努力殘餘ノ工事ヲ進捗セラレ現下ノ時局ニ



在リテ全竣工ノ一日モ速カナラシコトア

聊カ所懷ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和十七年五月三十一日

道路改良會々長 法學博士 水野鍊太郎

第一回東亞道路技術會議

霞
關
生

日本道路技術協會主催の、第一回東亞道路技術會議は、技術院總裁井上匡四郎氏を會長に戴き、去る五月二十九、三十日の兩日、

名もふさわしい大東亞會館に開催された。

日本本土は云ふに及ばず、滿洲、中華民國の友邦を始め、東亞諸國を代表せる多數の參會者を連ねて、その數凡そ千名。

豫想したことではあつたが、此の盛況振りには、全く轉手古舞をしたよ、と主催者側の嬉しい内輪咄であつた。

片雲も泛べぬ東亞晴に恵まれた第一日。

爽々しい初夏の陽を浴びて、早朝來陸續と參集の會員に、定刻前既に超過員。

午前八時三十分、總會開會。

國民儀禮、國歌齊唱、宣誓を経て、開會之辭。

說苑

内務大臣、滿洲國交通部技監及び中華民國建設總署督辦の祝辭

の後、九時二十分より特別講演に入る。

(一)自動車國策と道路交通國策 金子源一郎氏

(二)東亞に於ける道路政策と自動車工業の動向 浅原源七氏

(三)滿洲國の國防幹線道路計畫 町田義和氏

(四)大東亞の道路問題 三浦七郎氏

(五)國土計畫に於ける根本思想 田邊忠男氏

(六)國土計畫に於ける都市問題の動向 沼田征矢雄氏

會場正面には、日章旗を中心に、東亞友邦の各國旗が、和かに流れ入る陽光に輝き、千名の會員全神經を耳に染めて寂たる中に、烈々の舞は、刻々熱を帶び力を加へた。

正午、特別講演を行へる。

午後一時よりの部會は、四部に分て同時に進められた。